

不登校児童生徒を生まない取り組み

ステップ1 未然防止

年間を見通した未然防止取組

- 4月：誰もが認められる学級開きを行い、登校規範を保護者と確認する。
- 5・6月：GW明けは欠席数が急増する恐れがあるので注意。生活習慣を整える取組を行う。
- 7・8月：夏休みは子ども達の生活習慣・環境が大きく変化するので注意。
- 9月：夏休み明けの欠席が目立つので、早登校を推奨するなど生活習慣を整える取組を行う。
- 10～12月：欠席がちの子が不登校になったり問題行動等が多発する時期。学級集団の成熟を目指し、自他を認め合う人間関係作りを行う。また授業に不信感を持つ子も出てくるので、学習の面でのサポートも必要。
- 1月：冬休み明けの欠席が目立つので、早登校を推奨するなど生活習慣を整える取組を行う。
- 2月：不登校（傾向）の復帰に向けた支援の絶好の機会。次学年につなぐために、丁寧な情報共有を行う。
- 3月：新しい環境を整える準備期間。校種間・学年間で丁寧な引き継ぎを行う。

家庭と連携した未然防止

- ・登校規範を育てる…「病気でない限りは休んではならない」という意識を育てる。
- ・心のエネルギーを満たす…安心感・楽しい体験・認められる体験で子どもを包み、自立心を育てる。
- ・欠席時の学習の内容を確認する…学習のとりこぼしはないか、教師と保護者で連携し合う。

ステップ2 初期対応

当該児童生徒への段階的な支援

欠席1日目	担任による家庭への電話連絡をし、養護教諭と情報交換を行う。
連続欠席2日目	担任による家庭訪問をし、教育相談担当等への連絡を行う。
連続欠席3日目	担任以外の職員による家庭訪問をし、管理職へ連絡する。
連続欠席4日目	管理職と家庭訪問を行う。
連続欠席5日目	個別支援チームの発足。（全校体制での支援）

不登校のサインを見逃さない

- ・体調不良での遅刻、早退が多くなってきた
- ・月3回以上の欠席があった
- ・学習意欲が低下した
- ・保健室へ行くことが多くなった
- ・給食を食べる量が著しく減少（増加）した
- ・特定の教科のある日に欠席、欠課がある
- ・独りでいることが多くなった
- ・教室以外で過ごすことが多くなった
- ・からかわれたり仲間はずれにされたりすることがある

ステップ3 学校復帰に向けた自立支援

児童生徒理解・保護者との連携のポイント

家庭訪問	教育相談で信頼関係の構築	保護者との連携
○組織的・計画的な家庭訪問を ・管理職からのサポート ・教育相談支援員等の活用 ・生徒指導、教育相談、養護教諭の連携 ○学校復帰プランの策定 ・一人一人にあった復帰プランを ・スモールステップでOK	○受容と共感で、過度のプレッシャーを与えない ○ゴール設定は自分でさせる ○発達障がい疑い ・特別支援視点での対応を行う ・教師の判断で二次障害を招き、不登校になる場合も考える	○保護者の話をしっかり聞く（信頼関係を築く） ○一方的なアドバイス・批判はしない ○教育相談の充実を図る ・教育相談支援員等との連携 ・守秘義務の徹底